

平成24年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491900039	事業の開始年月日	平成20年8月1日
		指定年月日	平成20年8月1日
法人名	社会福祉法人 興寿会		
事業所名	グループホーム 興寿苑		
所在地	(〒239-0802) 神奈川県横須賀市馬堀町1丁目11番5号		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		工外数	2 工外
自己評価作成日	平成24年10月15日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月1日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・地域の方々との交流を大切に考えております。近隣からのご入居者もあり、ご家族もよく面会にお越し下さいます。
- ・地域の方々との交流を通じ、地域住民の一員として、福祉、医療、保健等の関係機関と連携を図り、住み慣れた町で、個人の尊厳に配慮しながらその能力に応じてできる限り自立した日常生活が安心して送れるよう支援しています。
- ・「自分が入りたいと思うホームにしよう」を目標に掲げ、ご入居者が「ここに来て良かった」と思ってもらえるよう努めています。
- ・京急大津駅から徒歩6分と近く、また横浜横須賀道路浦賀インターチェンジも開通し、お車での来苑も便利になりました（駐車場完備）。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル 8階		
訪問調査日	平成24年11月9日	評価機関 評価決定日	平成25年1月21日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

#### 【事業所の概要】

この事業所は京浜急行線の京急大津駅と馬堀海岸駅の間に位置し、駅から徒歩約10分の住宅地に立地した2ユニットのグループホームである。近くの海岸には遊歩道が整備されている。猿島も望め、観音崎にも近い。

#### 【地域との交流】

地域との交流を大切に考え、町内会とのコミュニケーションに努めている。町内会の餅つきや地元神社である諏訪神社のお祭りや防災訓練に参加している。ボランティアとの交流も盛んで、歌、踊り、お茶、将棋、ステンシル、ヘアカットなど多彩なボランティアが来所する。法人でボランティア感謝祭を行い、当ホームのボランティアを招待しボランティア同士の交流の場とした。市内にある県立福祉大学から「認知症とラジオ体操に関する調査研究」に協力し、3か月間毎朝ラジオ体操を行って観察記録を取っている。

#### 【往診医と医療連携体制による医療サービスの充実】

利用者は往診医により月2回受診している。医療連携体制加算の指定を受け、看護師と連携し、利用者が安心して医療を受診できる体制にある。看取りを行う体制もできており、24時間連携できる往診医もおり安心して生活ができています。希望があれば同じ法人の運営する特別養護老人ホームへの申し込みも行っている。

#### 【明るい室内と環境整備】

窓が多く、建物全体が明るい。掃除も行き届いており清潔である。換気や湿度などに気を配っており、加湿器などの配置も考えて行っている。利用者と職員が和やかに楽しく食事をしている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 興寿苑
ユニット名	グループホーム 興寿苑 1階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・目標を掲示板に掲げ、職員間で共有している。また、毎月の会議で利用者の思いに添った支援が行なわれているか確認している。	開所時からある8項目の理念を事務所や廊下に掲示し、敬老会のパンフレットに載せて利用者家族にも周知している。さらに「自分が入りたいと思うホーム」を目ざし、各ユニット毎に半年の目標を定め、月1回の会議や行事の時に話し合い業務に反映している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1ユニット1世帯として、町内会に加入し、観覧版等で地域の情報を得ている。また地域の祭りや防災訓練に参加し、当ホームの行事には、民生委員等を招待している。	各ユニット毎に町内会に加入している。餅つき大会や地元神社の祭礼、町内会の避難訓練などに参加している。また、グループホームの行事に地元の方を招待し、民生委員や自治会からのあいさつをいただいている。ボランティアの参加や、近隣の県立保健福祉大学から調査の依頼を受けている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員からの介護に対する相談を受け、支援。援助方法等のアドバイスを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を通じ、家族・民生委員・横須賀市と意見交換をし、サービス向上に努めている。	隔月で町内会役員、民生委員、利用者家族などの参加を得て、運営推進会議を開いている。1年に1度行政の参加がある。事業の報告やイベントの説明など行うほか、外部評価の話もしている。	自立度の高い利用者も多いので、利用者の参加があってもよいと思います。毎回でなくても、できるだけ行政が地域包括支援センターの職員へ参加を呼びかけることを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市とは、常にメールにて情報共有を行っている。また、横須賀市の担当部署主催の講習会も定期的に行われており、意見交換を行っている。	横須賀市とは主にメールで空き情報や研修のお知らせなどをやり取りしている。生活保護を受けている利用者もいるので担当部署との連絡を行っている。市の窓口には更新申請や外部評価の報告などの時に行っている。また、事業所連絡協議会にも参加し、交換研修などを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。「身体拘束等行動制限についての取り扱い要項」に基づき、会議にて周知徹底している。	昨年秋まで鍵は掛けていなかったが、黙って出掛けた利用者が線路内に侵入し注意を受けたことから、利用者の安全を考え、日中でも鍵をかけている。身体拘束に関しては、職員5人が法人内研修に参加し、事業所内でも周知をした。2Fの下半期の目標を「ダメと言わない介護」と定め実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等の研修には積極的に参加し、会議及び研修発表会にて職員に周知し、意識を持って虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会がなく、全職員には周知されていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時及び変更時には、説明に十分な時間を割いて、同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議及び家族面会時に、要望・意見を聞き、会議で話し合い運営に反映している。	面会時に家族から話を聞くことが多く、いろいろな意見が出る。意見箱に料金改定のことや、ケアプランについての意見があり、ご家族には丁寧に答えている。個別に聞いた意見では、好きなCDをかけてほしい、畑の作業をさせてほしい、散歩に行っていてほしいなどがあり、意見を言いやすい環境を作っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議にて、職員からの意見を集約し、管理者が法人本部の運営会議に出席・報告し、法人全体で運営に反映している。	業務日報や連絡ノートで意見の交換を行っている。フロア会議を月に1回行い、カンファレンスと共に全体会議を行っている。職員からは利用者のケアの提案や要望など聞くことが多く、話し合いの場としている。行事、食材、物品発注の各担当があり、担当職員に直接話す職員もいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長または法人施設長が会議に参加、また、職員個々に自己評価表を提出し、管理者・理事長等が適切に評価し、適材適所の配置に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体及びホーム内、また、外部研修会に積極的に参加できるよう、勤務を調整し、個々のレベルアップを計っている。また、管理者が中心となりOJTにて日常的に指導している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市グループホーム協議会を通じ、他事業所との情報交換・研修会等を行い、サービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人宅へ訪問し、不安や思いを傾聴し、安心してホームでの生活が送れるよう事前に調整している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ホーム見学や事前訪問を行い、本人・家族から希望や思いを傾聴し、それ答えることで信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なケア（サービス内容）を、事前面接等で直近の課題を把握し、体制を整えお迎えするよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見を尊重し、人生の先輩として様々な指導を受けている。また、意見も傾聴し、利用者、職員が共同で生活環境改善に努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等への報告・相談を常に行い、多角的な視点から支援できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴を十分把握し、外出や面会の調整を行っている。	利用者は地元の方が多く、散歩時に近くの猿島を見ると昔話に花が咲くこともある。諏訪神社や観音崎など懐かしい場所に外出することが多い。散歩時に顔なじみの方から柿や花をいただく利用者もいる。友人が来訪されたときは湯茶のもてなしだけでなく、写真を撮り部屋に飾るなどしている。電話の取り次ぎも行っているが、携帯電話を持ち込んでいる利用者もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう、職員が間に入るなど、利用者同士の架け橋になれるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、様々な意見や相談を受け入れ、継続して交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を尊重し、意思表示が困難な利用者に対しては、家族等から情報を聞き取るとともに、日常生活・表情・態度などから本人の意向を読み取るよう努めている。	初回アセスメントは自宅で行い、多くの話を聞くようにしている。戦争の話などは利用者自身で語ることが多い。意向を自分から伝えにくい利用者からは表情や態度から、本人の意思を察知し、組み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、本人・家族との事前面接をもとに、生活歴等、在宅生活の経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎ（申し送り）を密に行い、身体・精神面の状況把握に努めている。また、各種記録表を活用し、情報共有を計っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、様々な視点から意見を取り入れ、利用者個々の状況に合わせた介護計画を作成している。	毎月のフロア会議で利用者全員のカンファレンスを行っている。計画書は担当者会議に主治医の意見や家族の意見を取り入れ、居室担当職員と共に計画作成担当者が作成している。おおむね6か月ごとに見直しを行い、現状に即した計画を作っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・ケース記録等にて情報共有し、実践に活かしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間を規制せず、家族の生活に合わせた面会・外出・外泊を支援している。また、当ホームのリフト車を用いて、車椅子等の利用者の外出支援も行なっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々に、理美容・民謡・体操・将棋等の各種ボランティアの協力を頂いている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの、かかりつけ医の継続や、当ホーム主治医への変更等、本人・家族の意向や状態を考慮し、適切な医療が受けられるよう、支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医による受診を支援している、家族の要望があれば職員が同行することもあり、調査当日も同行受診していた。隔週で協力医の往診があり、精神科も月一回往診がある。また週に1度は法人の看護師が来訪する。24時間の連絡体制が整っており、医療連携加算を得ている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケース記録等で利用者の状況を記録し、看護職員及び協力医へスムーズに引き継げるようにしている。また、看護職員・医師からのアドバイスをもとに、健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、協力医を通じ直接情報提供を行い、また、ホームより介護サマリを提供し、早期退院できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期における介護が必要になった場合に、指針に基づき当ホームでの対応できる範囲を説明・同意を得て、常に医師、看護師及び家族との連携を図り、情報を共有している。</p>	<p>入居時に看取りの方針を口頭で伝え「看取りに対する指針」を配布している。法人内に特別養護老人ホームがあるので、そちらを申し込むご家族もいるが、基本としては看取りを含めて最後まで見る体制を整えている。職員も法人内で研修を受けている。実際に同意書を取り交わし看取りまで行った方も2名いる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアルを用いて、対応するよう職員に徹底している。また救急法の研修にも定期的に参加している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に防災訓練を行うと共に、地域の方々にも協力依頼をしている。</p>	<p>3/19と6/18に防災訓練を行った。6月は夜間想定で連絡網や避難誘導まで、消防署立ち会いの下に行った。当日は民生委員と利用者家族、近隣の方にも参加してもらって行った。備品は米20キロや防災頭巾や救急箱等の用意はあるが、水や食料などは十分な量はない。</p>	<p>法人内には備蓄があるとのことですが、事業所内部に水や食料品3日分の備蓄を早急に整備されるのが望ましいと思います。</p>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への配慮を心掛けた声掛けができるよう、採用時に接遇に関しての研修を行っている。	プライバシーや倫理は法人の研修で行っている。新人にはオリエンテーションの場で話している。利用者を尊敬すること、入居時にはノックをし、声掛けをして室内に入ること、カンファレンスや記録は部屋番号で呼んだり記録をしている。個人情報を含む書類は事務所内の鍵のかかる場所に保管されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望・自己決定を尊重し、本人の意思やレベルに合わせた支援を行なっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と一緒に買物に出かけたり入浴・食事時間など、個々の生活リズムに沿った支援を行なっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアによる理美容サービスに月1回来て頂いている。またパーマ・毛染め等の希望の場合は近隣の美容院まで付き添いを行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルに合わせ、食事の準備や下ごしらえ、後片付けなど、職員と一緒にやっている。	毎食カロリー計算され簡単な調理法付きの食材を業者に頼んでいる。利用者は職員と共に調理したり、配膳や下膳、食器洗いなど共に行っている。職員は同じテーブルで、見守りながら利用者と同じ食事をしている。全員での外食はないが、個別に希望を聞き散歩の際に食事をしたり、通院の帰りに好きな食事をしてもらうこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を法人の管理栄養士に確認して頂き指導を受けている。食事摂取量及び水分摂取量を都度記録に記載し確認している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台にて口腔ケアを行い、週1回歯科医の往診時に個々の状況の確認をして頂き指導を受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつパターンを把握し、事前の声掛けや誘導を行い、おむつ使用や失敗を減らす支援を行なっている。	「排泄・ラウンド確認表」に記載してパターンを把握し声掛けを行っている。夜間は1時間おきに見守りを行い、失敗の無いよう声掛けを行っている。ポータブルトイレからトイレに誘導できた利用者もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の有無を確認し、食事・水分・軽運動等工夫している。また、下剤の使用については主治医相談のもと服薬介助を行なっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間帯を定めず、利用者の希望に沿って入浴して頂いている。	午後の入浴が多いが、希望すれば午前や夕方入浴も可能である。毎日入浴を希望される利用者が1名おり、対応している。入浴が好きでない利用者にも職員を変えて声掛けをしたり、タイミングを見て誘うなどして週に2回は入ってもらっている。ゆず湯や菖蒲湯などは利用者も楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、適度な運動や散歩を取入れている。また、昼寝の促しや、就寝時間の声掛けを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックや個々の服薬情報・副作用出現について共有し、把握に努めている。随時、身体面・精神面での変化等主治医との相談の上、実施している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴の中で役割を見出し、日常生活の活性化を促している。また、季節感を味わえるイベントを実施し、気分転換を図っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑・庭園の手入れや散歩外出を促し、できる限り戸外へ出る機会を多く作っている。一人ひとりの状態に合わせ、リフト車での外出も行っている。	事業所から10分ほどの海岸に散歩道が整備されており、猿島を眺めに車椅子で散歩をしている。法人のリフト車を借りて、全員で花見や買い物、美術館に出向くこともある。園庭に畑やベランダがあり、椅子やテーブルを置いて外気浴をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理（預り）はホームで行っているが、買物等で支払う際は、ご自身に財布を持って頂き、一緒に支払いを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を利用し、自室で電話ができるようにしている。また、手紙の代筆を職員がするなどし、支援を行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔面に気を配り、食堂は常に利用者が寛げるように配慮している。また、季節感のある装飾等で工夫している。	事業所内は掃除が行き届いており、臭いもなく清潔感がある。中庭にししおどしがあり、明かり取りとなっている。窓が多いため採光に優れている。室内に加湿器を数多く置き、湿度や換気に気を配っている。園庭に畑を作り、ナスやキュウリ、トマトを収穫した。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテレビ前に、談笑できるスペースを確保している。また、屋外にもテーブルやイスを置き、居心地の良い空間を確保している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に入居の際、本人の使い慣れたものを持参して頂き、居室内は本人・家族の意見を取り入れ、居心地よく過ごせる環境にしている。	居室は鏡がついた洗面台、エアコン、クローゼットが備え付けられている。利用者はテレビやタンス、ベット、冷蔵庫などを置き、時計や写真、趣味の将棋盤、自作の人形等飾っている。自宅と同じようにカーペットを敷き、こたつで生活している方もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、トイレ・浴室・廊下等に手摺を設置するなど、利用者個々の状態に応じたケアができるよう、環境整備を行っている。		

事業所名	グループホーム 興寿苑
ユニット名	グループホーム 興寿苑 2階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・目標を掲示板に掲げ、職員間で共有している。また、毎月の会議で利用者の思いに添った支援が行なわれているか確認している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1ユニット1世帯として、町内会に加入し、観覧版等で地域の情報を得ている。また地域の祭りや防災訓練に参加し、当ホームの行事には、民生委員等を招待している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員からの介護に対する相談を受け、支援。援助方法等のアドバイスをを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を通じ、家族・民生委員・横須賀市と意見交換をし、サービス向上に努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市とは、常にメールにて情報共有を行っている。また、横須賀市の担当部署主催の講習会も定期的に行われており、意見交換を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。「身体拘束等行動制限についての取り扱い要項」に基づき、会議にて周知・徹底している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止等の研修には積極的に参加し、会議及び研修発表会にて職員に周知し、意識を持って虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会がなく、全職員には周知されていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時及び変更時には、説明に十分な時間を割いて、同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議及び家族面会時に、要望・意見を聞き、会議で話し合い運営に反映している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議にて、職員からの意見を集約し、管理者が法人本部の運営会議に出席・報告し、法人全体で運営に反映している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長または法人施設長が会議に参加、また、職員個々に自己評価表を提出し、管理者・理事長等が適切に評価し、適材適所の配置に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体及びホーム内、また、外部研修会に積極的に参加できるよう、勤務を調整し、個々のレベルアップを計っている。また、管理者が中心となりOJTにて日常的に指導している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市グループホーム協議会を通じ、他事業所との情報交換・研修会等を行い、サービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人宅へ訪問し、不安や思いを傾聴し、安心してホームでの生活が送れるよう事前に調整している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ホーム見学や事前訪問を行い、本人・家族から希望や思いを傾聴し、それ答えることで信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なケア（サービス内容）を、事前面接等で直近の課題を把握し、体制を整えお迎えするよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見を尊重し、人生の先輩として様々な指導を受けている。また、意見も傾聴し、利用者、職員が共同で生活環境改善に努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等への報告・相談を常に行い、多角的な視点から支援できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴を十分把握し、外出や面会の調整を行っている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう、職員が間に入るなど、利用者同士の架け橋になれるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、様々な意見や相談を受け入れ、継続して交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を尊重し、意思表示が困難な利用者に対しては、家族等から情報を聞き取るとともに、日常生活・表情・態度などから本人の意向を読み取るよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、本人・家族との事前面接をもとに、生活歴等、在宅生活の経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎ（申し送り）を密に行い、身体・精神面の状況把握に努めている。また、各種記録表を活用し、情報共有を計っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、様々な視点から意見を取り入れ、利用者個々の状況に合わせた介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・ケース記録等にて情報共有し、実践に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間を規制せず、家族の生活に合わせた面会・外出・外泊を支援している。また、当ホームのリフト車を用いて、車椅子等の利用者の外出支援も行なっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々に、理美容・民謡・体操・将棋等の各種ボランティアの協力を頂いている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの、かかりつけ医の継続や、当ホーム主治医への変更等、本人・家族の意向や状態を考慮し、適切な医療が受けられるよう、支援している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケース記録等で利用者の状況を記録し、看護職員及び協力医へスムーズに引き継げるようにしている。また、看護職員・医師からのアドバイスをもとに、健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、協力医を通じ直接情報提供を行い、また、ホームより介護サマリを提供し、早期退院できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期における介護が必要になった場合に、指針に基づき当ホームでの対応できる範囲を説明・同意を得て、常に医師、看護師及び家族との連携を図り、情報を共有している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアルを用いて、対応するよう職員に徹底している。また救急法の研修にも定期的に参加している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に防災訓練を行うと共に、地域の方々にも協力依頼をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への配慮を心掛けた声掛けができるよう、採用時に接遇に関する研修を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望・自己決定を尊重し、本人の意思やレベルに合わせた支援を行なっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と一緒に買物に出かけたり入浴・食事時間など、個々の生活リズムに沿った支援を行なっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアによる理美容サービスに月1回来て頂いている。またパーマ・毛染め等の希望の場合は近隣の美容院まで付き添いを行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルに合わせ、食事の準備や下ごしらえ、後片付けなど、職員と一緒にやっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を法人の管理栄養士に確認して頂き指導を受けている。食事摂取量及び水分摂取量を都度記録に記載し確認している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台にて口腔ケアを行い、週1回歯科医の往診時に個々の状況の確認をして頂き指導を受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつパターンを把握し、事前の声掛けや誘導を行い、おむつ使用や失敗を減らす支援を行なっている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の有無を確認し、食事・水分・軽運動等工夫している。また、下剤の使用については主治医相談のもと服薬介助を行なっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間帯を定めず、利用者の希望に沿って入浴して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、適度な運動や散歩を取入れている。また、昼寝の促しや、就寝時間の声掛けを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックや個々の服薬情報・副作用出現について共有し、把握に努めている。随時、身体面・精神面での変化等主治医との相談の上、実施している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴の中で役割を見出し、日常生活の活性化を促している。また、季節感を味わえるイベントを実施し、気分転換を図っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑・庭園の手入れや散歩外出を促し、できる限り戸外へ出る機会を多く作っている。一人ひとりの状態に合わせ、リフト車での外出も行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理（預り）はホームで行っているが、買物等で支払う際は、ご自身に財布を持って頂き、一緒に支払いを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を利用し、自室で電話ができるようにしている。また、手紙の代筆を職員がするなどし、支援を行なっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔面に気を配り、食堂は常に利用者が寛げるように配慮している。また、季節感のある装飾等で工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテレビ前に、談笑できるスペースを確保している。また、屋外にもテーブルやイスを置き、居心地の良い空間を確保している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に入居の際、本人の使い慣れたものを持参して頂き、居室内は本人・家族の意見を取り入れ、居心地よく過ごせる環境にしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、トイレ・浴室・廊下等に手摺を設置するなど、利用者個々の状態に応じたケアができるよう、環境整備を行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム興寿苑

作成日 平成25年2月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害時等における備蓄（食料等）が、保管場所がなく整っていない。	同法人（横須賀市池上）に、グループホーム入居者及び職員3日分の備蓄はあるが、ホーム内に飲料水だけでも備蓄できるスペースを確保する。	建物内倉庫の整理及び屋外にスペースの確保（物置等の設置）を検討。	3ヶ月
2	4	年6回の運営推進会議に、ご家族、民生委員は毎回参加して頂いているが、行政等の参加は現状年1回に留まっている。	市役所だけでなく、地域包括支援センターにも協力して頂き、事業所、ご家族、民生委員、行政等が一体となってサービス向上に努める運営推進会議の開催をする。	早い段階で連絡・調整を行い、参加を呼びかける。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。